

小学校

平成 17 年 度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教職員研修センター

目 次

I 研究主題および基本的な考え

1 主題設定の理由	2
2 研究主題にかかわる基本的な考え	3
3 研究仮説	4
(1) 研究仮説	
(2) 仮説検証の視点	
4 研究構想図	5
5 実態調査	6
(1) 調査の目的	
(2) 調査対象及び調査方法	
(3) 調査の内容	
(4) 結果と考察	

II 主題に迫るために

1 視点1にかかわる具体的な手だて	8
2 視点2にかかわる具体的な手だて.....	10

III 実践事例

1 事例1 学習過程「つかむ」における実践例 単元名「めざせ！その道の達人」（第5学年）	12
2 事例2 学習過程「追究する」における実践例 単元名「手と手をつなごう ～『みんなで生きる町』について考えよう～」（第6学年）	16
3 事例3 学習過程「広げる」における実践例 単元名「人にやさしい私たちの町」（第4学年）	20

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果	24
2 今後の課題	24

I 研究主題及び基本的な考え方

研究主題「学んだことを生かす力」を育てる指導の工夫

1 主題設定の理由

平成17年に文部科学省が実施した「義務教育に関する意識調査」の「総合的な学習の時間に対する意見」によると、総合的な学習の時間について、小学校教員は、「特色ある教育が展開できる」(約74%)、「児童に学習する意欲や表現する力が身に付く」(約70%)ととらえている。また、小学校の保護者は「よいと思う」(約73%)、子どもは「ふだんできないことが体験できる」(約78%)と肯定的に受け止めている。しかしその一方で、教員は「教科との関連が不十分で学力が身に付かない」(約55%)「教科時数が減り、基礎的・基本的な内容の学習がおろそかになっている」(約66%)など、確かな学力を身に付けさせることと関連させて総合的な学習の時間の在り方について問題意識をもっていることがわかった。

また、本部会の話し合いの中で、「総合的な学習の時間」に関して充実・改善を要することとして以下の4点が意見として出された。

- ・各教科等との関連を図り、既習事項や経験を生かす力を育てる指導
- ・課題が多岐にわたる場合の個への支援の充実
- ・主体的に問題解決する力を育成する指導
- ・ねらいや育てたい力を明確にした指導

これらのことから、総合的な学習の時間のねらいを目指す上で、子どもが各教科等で学んだことを自ら有機的に統合させ、生かす力を育てていくことが課題であるにとらえた。

そのために、自らを振り返り、活動の改善を図ったり、軌道修正をしたりしながら、自分の成長に役立てていく力を身に付けられる指導を重視したい。また、一人一人の思いや考えを大切に、考える力を育てるための学習活動の開発や、子どもの考えをねらいにそって生かす指導の在り方を明らかにしたいと考えた。

上記の考えのもと「個に応じた指導の一層の充実」という平成17年度教育研究員共通研究テーマを基調に「学んだことを生かす力を育てる指導の工夫」を研究主題とした。

2 研究主題にかかわる基本的な考え

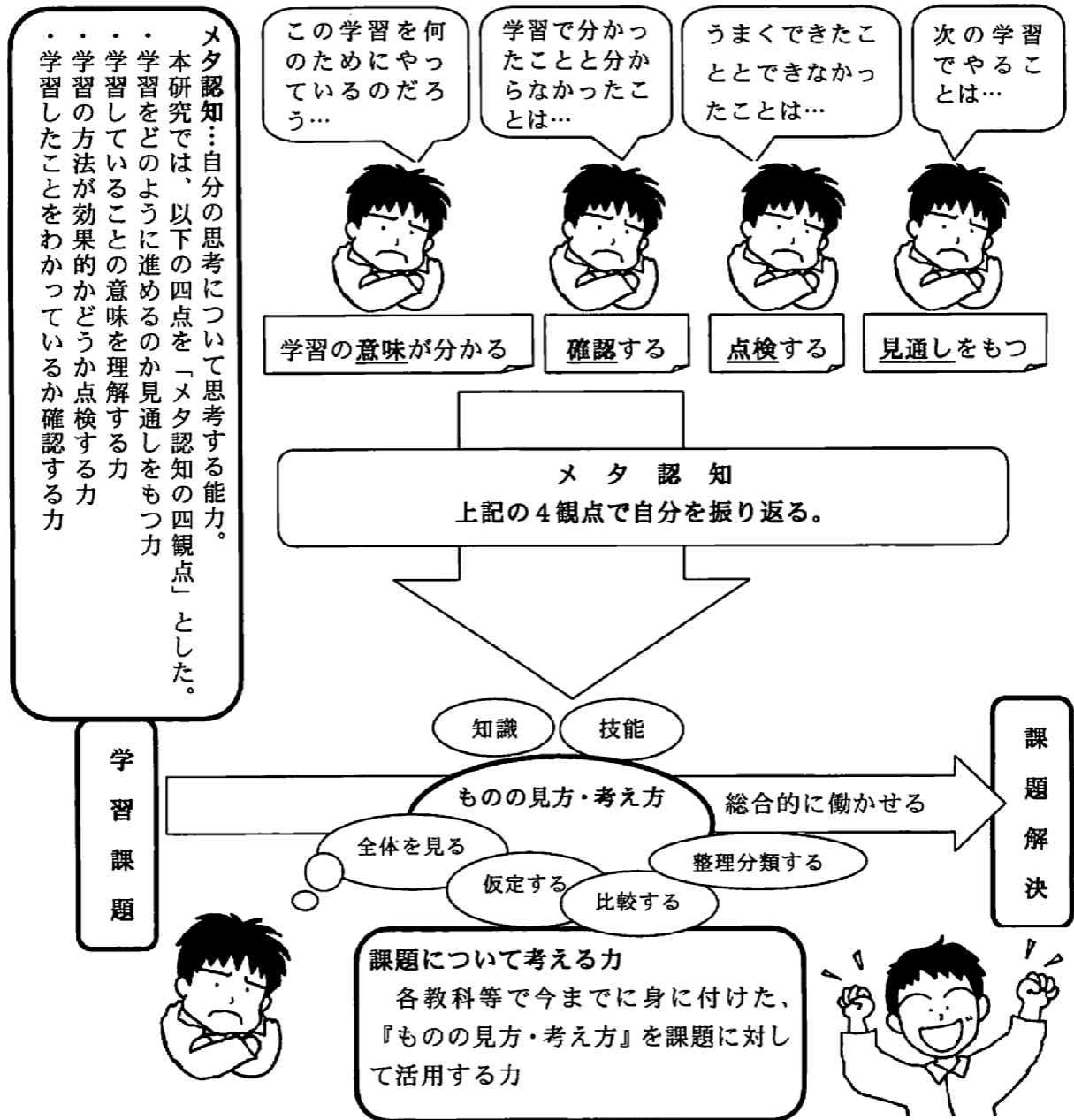
(1) 学んだことを生かす力について

本部会は、研究主題にある「学んだことを生かす力」を以下のようにとらえた。

- 学んだこと**… 各教科等を通して学んだ知識・技能やものの見方・考え方。
〔本研究では、特に『ものの見方・考え方』を重視。〕
- 学んだことを生かす力**… 「学んだこと」を相互に関連付け、目的に応じて総合的に働くようにする力ととらえる。「考える力」と「自らを振り返る力」を重視する。

(2) 学んだことを生かす子どもの姿

学んだことを生かす子どもを、下記の図のように、「課題について考える力（各教科等のものの見方・考え方）」と「メタ認知を使い自分を振り返る力」を発揮して、自分の課題を解決すると、本部会ではとらえた。



参考文献；「教育工学辞典」（日本教育工学会編）2000年

工藤順一『子どもの「考える力」を伸ばす国語練習帳』（PHP研究所）2005年

イラスト；「コマザキ先生のほげんだより そのまま使えるカット・555」（東山書房）2003年

3 研究仮説と検証の視点

(1) 研究仮説

子どもの思考がよりよく働くための支援をすることで、子どもは、より高次の問題解決のために学んだことを有効に生かすであろう。

子どもが主体的・創造的に取り組む活動において、有効な支援を工夫することは、学習課題や追究方法をさらに深く考え、効果的に課題解決できるようになると考える。そして、身に付けた「知識・技能」に加え「ものの見方・考え方」をも活用するようになり、その後の活動において、学んだことを目的に応じて生かすようになると考え、上記の仮説を設定した。

(2) 仮説検証の視点

視点1 課題について考える力を育てる支援

視点2 メタ認知を意識して、自己評価力を育てる支援

① 視点1「課題について考える力を育てる支援」について

考える力を明確化する。考える力を育てる手法を取り入れた活動を工夫する。

ア 情報を整理・分類し、課題を見つける活動（KJ法的手法などの活用）

調べてきたことや考えてきたことなど、様々な情報を整理・分類する。

イ 課題について考えを深める活動（KJ法的手法・ウェビングマップ的手法などの活用）

課題について様々な角度から考えることで、自分の考えに根拠をもつ。

ウ 考えを生み出す活動（多重円図法などの活用）

様々な考えに触れることで、新しい自分の考えを生み出す。

② 視点2「メタ認知を意識して、自己評価力を育てる支援」について

自己評価において、一時間の活動、または、ひとまとまりの活動の「意味」を理解する。そして、理解したことや分からないことを「確認」する。自己の考え方を「点検」でき、次の活動への「見通し」がもてるような支援を工夫する。（以下、「意味」「確認」「点検」「見通し」をメタ認知の4観点とする。）

ア 学習計画を立てる活動

自分の学習をどのように進めるのか、計画を立てる。課題解決の手順や必要な準備を具体的に考えることで、学習活動に「見通し」をもつ。

イ メタ認知の4観点による自己評価活動の設定

学習日記や振り返りカードにメタ認知の4観点を取り入れ、明確に自分の学習を評価する。毎時間ごとの活動の積み重ねを大切にする。

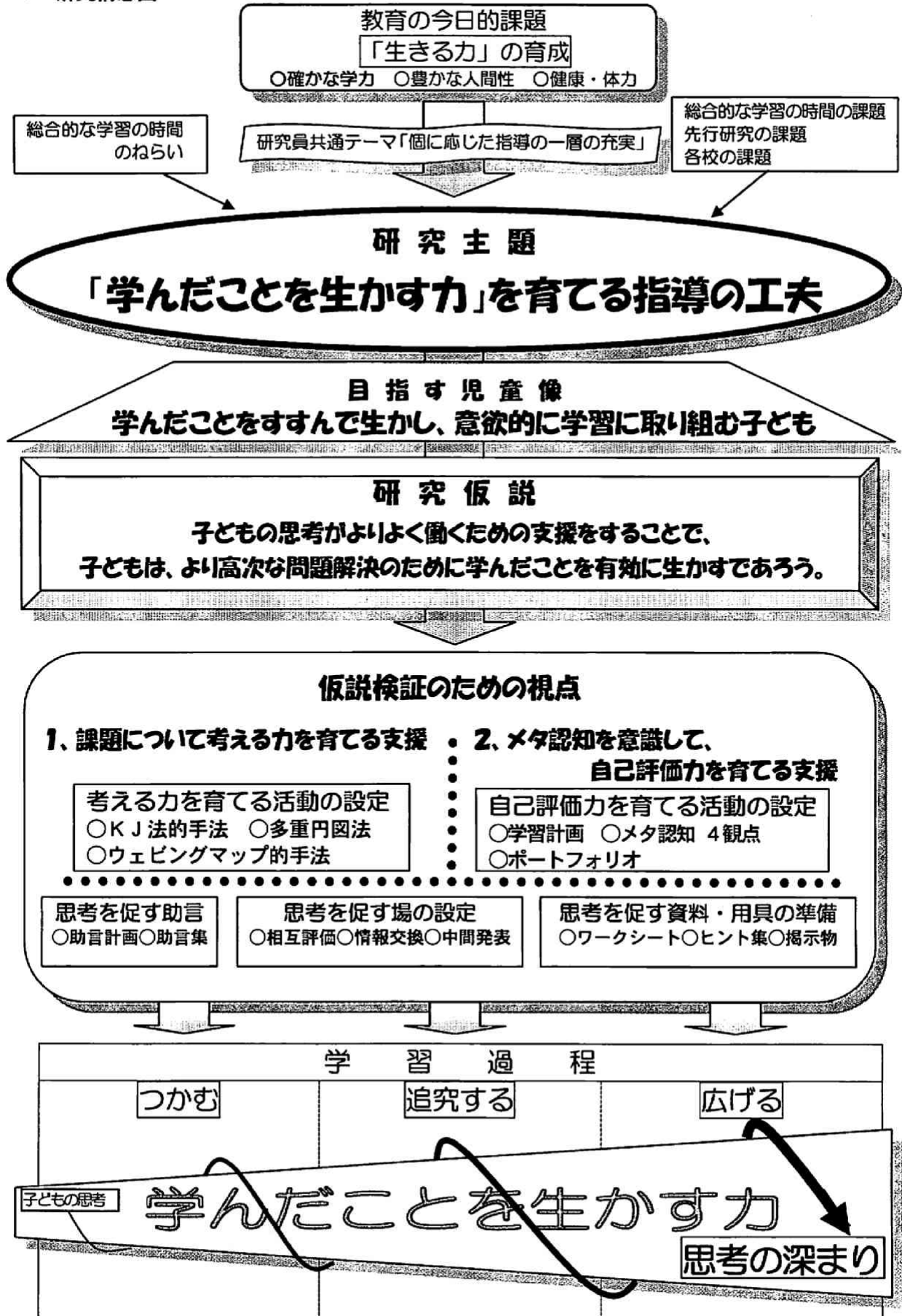
ウ ポートフォリオの活用

学習資料や学習日記、振り返りカードなどをファイルし、自己評価活動の資料とする。

③ 視点1と視点2に共通する支援について

一人一人、そして全体への「助言」を大切にし、学んでいることを共有できる「場の設定」を工夫し、学ぶ意欲が高まる「資料・用具の準備」を計画的に行うことは、よりよく思考が働く支援の土台となると考えた。思考を促す「助言」「場の設定」「資料・用具の準備」を視点1・視点2に意図的に取り入れることで、支援の充実を図る。

4 研究構想図



5 実態調査

(1) 調査の目的

- 仮説検証をするための視点1・視点2に関する実態を把握するため。
- 授業実践を通して、子どもの思考がよりよく働くようになり、より高次の問題解決のために学んだことを有効に生かすようになったかを、明らかにするため。

(2) 調査対象及び調査方法

- 調査対象校・・・小学校14校（本部会部員所属校）
- 調査対象学年・・・第3学年～第6学年
- 調査対象人数・・・525名
(内訳：第3学年…56名、第4学年…201名、第5学年…216名、第6学年…52名)
- 調査方法調査対象及び調査方法
各部員の担当学年の児童を対象に、記名式の調査用紙を配布した。質問項目は以下のとおりである。
本調査は、仮説検証をするための視点1・視点2の支援を実践する前の事前調査であり、今後、実践後に事後調査を実施し、子どもの変容を把握し、仮説検証の視点が適切であったのかを確かめる予定である。

(3) 調査の内容

項目1	①	総合的な学習の時間で学習したことが、各教科で役に立ったことがある。
	②	各教科で学習したことが、総合的な学習の時間に役に立ったことがある。
	③	総合的な学習の時間は楽しみである。
項目2	①	学習の計画を自分で考えることができる。
	②	調べる方法を自分で見つけることができる。
	③	もっと良い方法はないだろうか、ちがう方法を考えることができる。
	④	自分のめあてにどれだけ近づいているのかがわかる。
	⑤	問題の予想を立てることができる。
	⑥	理由をつけて説明することができる。
	⑦	資料から考えることができる。
	⑧	いろいろな考えがあることに気付くことができる。
	⑨	自分の考えをもつことができる。

項目1は、研究主題である「学んだことを生かす力」について、①②は学習したことを生かした経験を、③は総合的な学習の時間に対する子どもの意欲を調べる項目である。

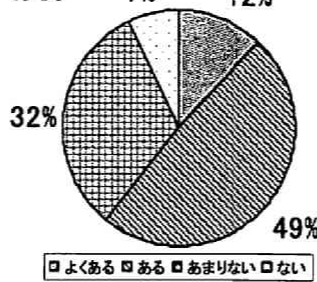
項目2の①～④は、仮説検証の視点2「メタ認知を意識した自己評価」の実態把握に関する項目である。

項目2の⑤～⑨は、仮説検証の視点1「課題について考える力」の実態把握に関する項目である。

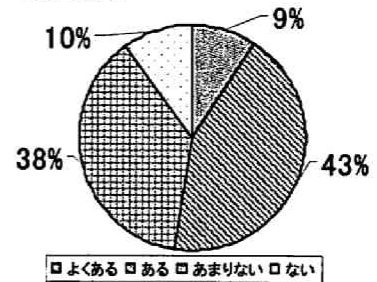
(4) 結果と考察

「各教科等で学習したことが、総合的な学習の時間に役に立ったことがある」という質問に対して、「よくある」「ある」と答えた割合は、60%をわずかに超えるにとどまっている。

各教科等で学習したことが、総合的な学習の時間に役に立ったことがある。



総合的な学習の時間で学習したことが、各教科等で役に立ったことがある。

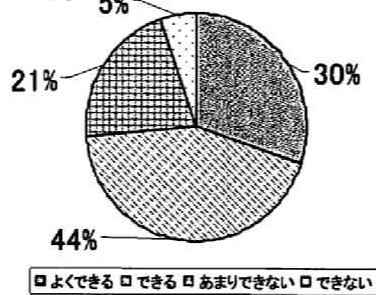


一方、「総合的な学習の時間で学習したことが、各教科で役に立ったことがある」ことが「よくある」「ある」と答えた割合は、約50%となっている。

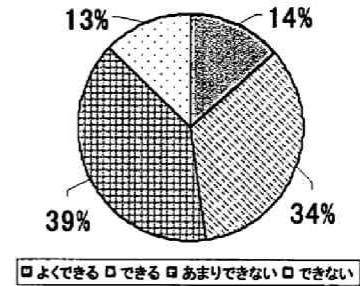
この結果から、子どもは学んだことを生かすことが十分でないと考えられる。総合的な学習の時間において、子どもが学んだことを生かせるような授業をつくっていく必要がある。

右の調査結果を見ると、「自分の考えをもつことができる」と感じている子どもは比較的多い。しかし、「理由をつけて説明することができる」という質問に対して、「よくできる」「できる」と答えた

自分の考えをもつことができる。



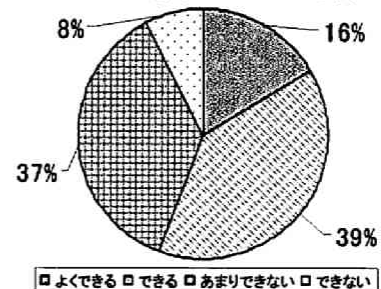
理由をつけて説明することができる。



子どもの割合は、50%を下回っている。このことから、「様々な角度から検討を重ねて自分の考えに根拠をもつ」という状態までには至っていないと考えられる。根拠のある意見をもつことにより、自分の考えに自信をもつことができ、学習をすることのよさを感じることができると考えられる。そこで、授業を通して「理由をつけて説明することができる」ように工夫していく必要があると考えられる。

子どもたちの学習の進め方については、「もっと良い方法はないだろうか、ちがう方法を考えることができる」という質問に対して、「よくできる」「できる」と答えた子どもの割合は、約50%であった。この結果から約半数近くの子どもが、本当にその学習方法でよいのかということを考えることが難しい傾向にあることがわかる。より高次の問題解決のために、自分自身の学習内容の意味をつかみ、学びの内容を確認し、進度を点検した上で、さらに学習をすすめていく見通しをもつことができる力を身につける必要があると考える。

もっと良い方法はないだろうか、ちがう方法を考えることができる。



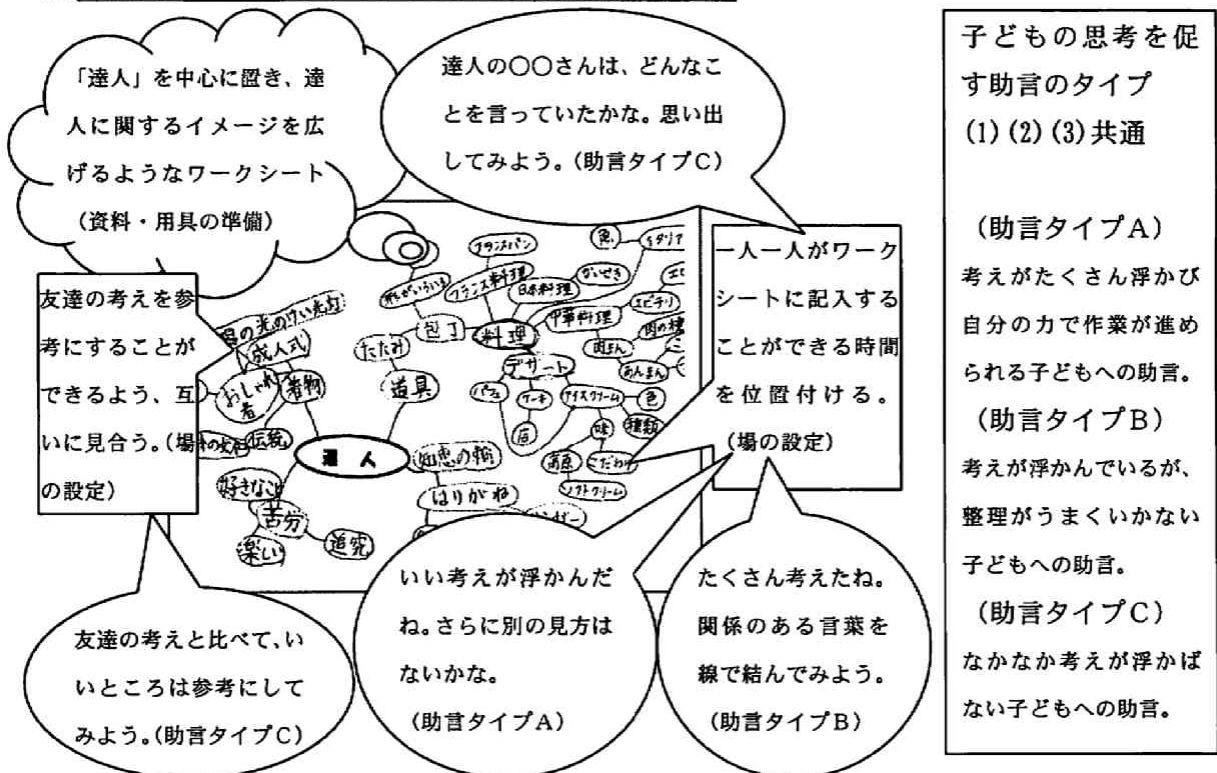
II 主題に迫るために

1 視点1 課題について考える力を育てる支援にかかわる具体的な手だて

(1) 課題を設定するための支援の工夫（手だて：ウェビングマップ的手法を活用して）

自分の考えや追究したいことをはっきりさせて、次の活動の方向性が見えるようにするためにこの手法を用いた。

<例 達人についてのイメージを広げ、課題を設定する>



(2) 考えを整理するための支援の工夫（手だて：KJ法的手法を活用して）

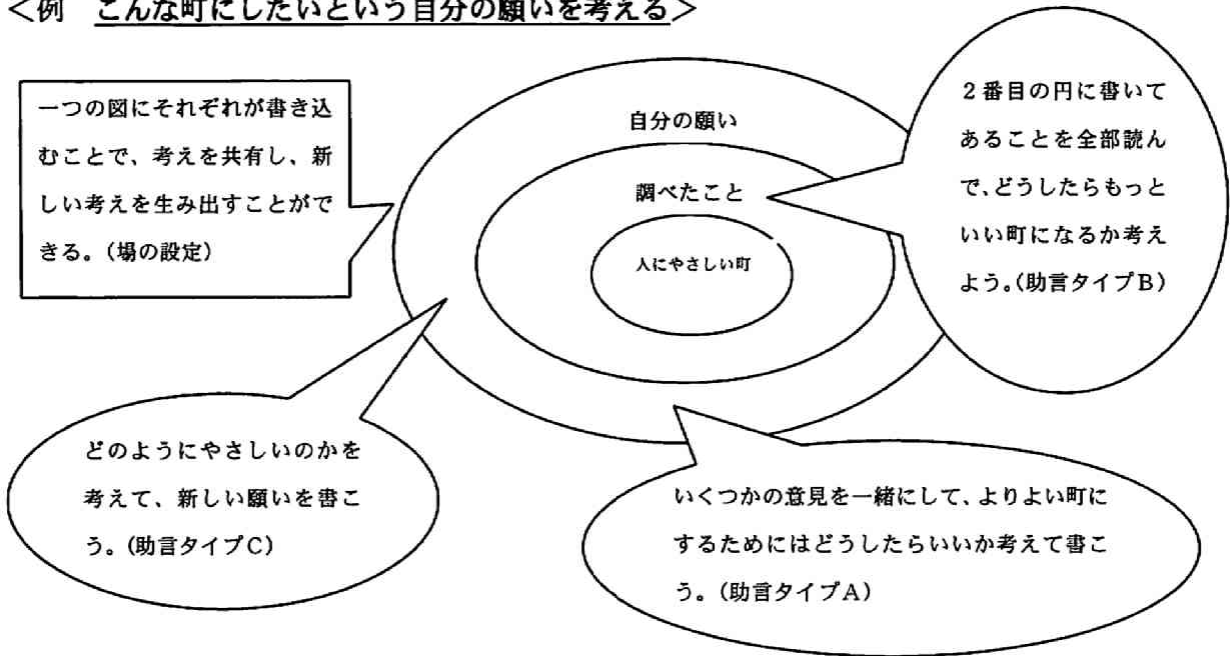
子どもが自分の考えを書いたカードを集めカテゴリーごとに分類することで、子どもから出たたくさんの意見を整理するための手法。これにより思いや願いをもとに、学習の課題を明確にすることができる。



(3) 考えを深めるための支援の工夫（手だて:多重円図法を活用して1）

多重円図法とは、観点を設けた三又は四重円に、子どもの意見を書き込みながら話し合うことを通して、それぞれの考えを生かしたり、新しい考えを生み出したりすることをねらう手法である。中心から外に向かって書いていくことで、考えを深めることができる。

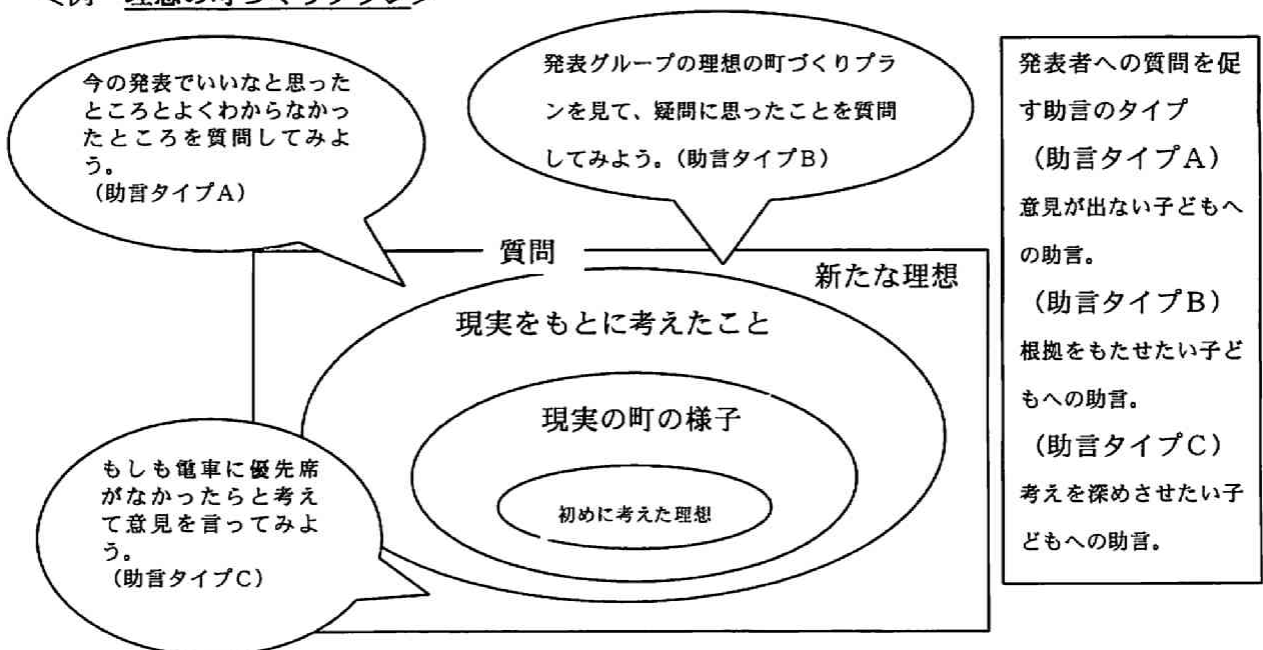
<例 こんな町にしたいという自分の願いを考える>



(4) 考えをまとめるための支援の工夫（手だて:多重円図法を活用して2）

子どもの発表を聞きながら教師が整理しながら模造紙に書き込んでいく。(資料・用具の準備) 発表後に全体で意見や質問をさせ、情報交換の時間を設ける。(場の設定) その結果考えが深まり広がる。その後もう一度多重円の見直しの時間を設け、書き込みをさせることで自分たちの考えをまとめることができる。

<例 理想の町づくりプラン>



2 視点2 メタ認知を意識して、自己評価力を育てる支援にかかわる具体的な手だて

◆ 学習計画カード（手だて1）

いつまでに、何を、どのように進めるのか、自分で計画を立てる。これによって、学習の見通しがもて、活動の目的と内容と方法が関連付けられる。週単位、月単位など学習活動の時間数に応じて計画を立てていく。また、振り返りカードと併用することで、学習計画の修正を簡単に行うことができる。

2週間単位で計画を立てている。月ごとのカレンダーを併用することで子どもに日程も意識させることができる。さらに、達成した計画についてはチェックできる欄を設け把握できるようにした。方法についても計画の立てやすさを考慮し、具体的な方法を示した。

学習計画 姓 _____ 年 _____ 番 名前 (_____)			
11月7日(月)から11月20日(日)までの学習計画			
方法	どんなことを	いつごろどこで	〇
インターネット	バス会社のホームページを調べる	パソコンルームで授業	
本・新聞	バスについての本を調べる	市民図書館	
アンケート	バスにのって困ったこと、便利だったこと 誰に… クラスのおんな	クラスで 8日の帰郷会	
フィールドワーク 調査・実験 体験活動	実際に 通り(付近)などでバスの工夫がされていないか確かめる	通りで 土曜の日曜	
フィールドワーク インタビュー	バスの工夫について 誰に… できたら運転手さんに	通りで 土曜の日曜	
手紙 (FAX) メール	バスの工夫(ノンステップバスなど) バスの施設について 誰に… バス会社	学校で 10日 中休日	
電話 インタビュー	バスの工夫(ノンステップバスなど) バスの施設について 誰に… バス会社	学校で 10日 中休日	
情報の 呼びかけ (街頭演説)	バスのこと知っていること 誰に… 学年のおんな	37か	
学校での 体験活動	車いすユーザーの方の話と質問タイム…………… 盲導犬ユーザーの方の話と質問タイム……………	11月11日(金) 11月15日(水)	

<調べる方法を意識した高学年の例>

◆ ポートフォリオ（手だて2）

学習成果（文章・絵・作品・調べ学習の情報メモや新聞の切り抜き・写真等）を全てファイルしたもの。前時までの活動を簡単に振り返ることができ、メタ認知を高めるための資料として活用する。学習活動の順番に従って貼り重ねていく方法とファイル等を利用して保存していく方法が考えられる。

<順番に従って貼り重ねる方法>

毎回の学習で使用したワークシート等を糊付けして貼っていく。活動の順序性を重視しながら振り返ることができる。時間数の少ない学習活動に向けた保存の仕方である。

<ファイル等を利用する方法>

ファイルの中に全ての学習成果をためておく方法。学習後のプリント、資料等を整理しながら入れ換えることで、学習活動を振り返るだけでなく自分の活動を再構築することが可能である。特に、集めた資料を取捨選択する時に有効であり次への課題を明確にすることができる。また、学習活動終了時には貼り合わせて学習成果として1冊にまとめることもできる。比較的時間の多い学習活動や高学年向けの保存の仕方である。

◆ 学習日記
(手だて3)

学習後に記入する。継続して、自己の評価の意義や内容を文章で説明することによって、自己を的確に評価できる力を高める。

毎時間書かせるものと単元の区切りで書かせるものが考えられる。

◆ 振り返りカード (手だて4)

毎時間または活動のまとめごとに、以下の4点に基づいて記入する。これらメタ認知の4観点を振り返ることで、子どもたちは活動全体の意味を確認し軌道修正をする。このような振り返りカードを用いて自己評価を継続して行うことで、自己を的確に評価できる力を高めることができる。また、カードの内容や記入の分量等については、発達段階に応じて工夫するとよい。

～学習の振り返りをするための4観点～

- 意味・・・何のために、何をしようとしているのか。
- 確認・・・どこまで分かって、何が分からないのか。
- 点検・・・自分の学習方法は効果的か。
- 見通し・・・何をどのように考え、どう進めていくのか。

<メタ認知の4観点を意識した振り返りカードの例>

[高学年の振り返りカードの例]

項目ごとに記入させる。観点は4観点到に基づいているが、さらに細かく項目分けをしている。観点の内容を具体的に示すことで、メタ認知の能力が高まる。

学習日記	月	日	年	組	名前()
	今日の学習をふりかえりましょう。				
今日の 目標	「今日は、どんなことを学習したかな」 中間発表で今まで調べたことを発表した。				
意味	「今日の学習のめあては、何だったのかな」 みんなに、今まで調べたことについて発表した。				
確認	「今日の学習で、どんなことが分かったかな」 みんなからの質問を受けてよく調べているという所がたくさんあった。				
点検	「今日の学習で、どんなことが分からなかったかな」 特になし				
チェック (点検)	「今日の学習の方法は、うまくいったかな」 円グラフをうまく使って表すことができた。				
チェック (点検)	「もっとうまくいく方法は、何か考えられたかな」 何かを物に例えたりすれば良かったと思う。				
達成感	「今日の学習に点数をつけると、5点中何点かな」 しっかり書いたことが書えたから 5点				
見通し	「次の時間は、どんなことにチャレンジしたいかな」 よく調べている所をより詳しく調べる。				
見通し	「今後、どんなことにチャレンジしていきたいかな。学習計画カードに記入しよう」 インタビューやアンケートをやってみたい。				

[中学年の振り返りカードの例]

4観点のうち、「意味」についてはあらかじめ記入してある。他の3観点については、子どもにわかりやすい言葉で示している。

2nd step (見通し・確認) 3rd step (点検) 学習日記 2018.10.

2. 人にやさしい可読性・読解性 学習日記

「自分の小テーマがどのように人にやさしいか。」を
おまかせいたします。(書誌)

(1) 確認

90-100点
車イスの人はボタンはひくく
人リフトは分かる。
どの人が使うか
が分かる。

90-100点
車イスのトイレはぜんぶで
なにかあるかならない。
車イスでたまたまトイレ
のぼりたりできるさか
あるかならない。

(2) 点検

100点満点
いろいろ質問してみんな意見を
聞いたこと。
みんなめいめい
うそもたくさん
かけたこと。

100点満点
1時間かかるといって
少しかかったこと。

(3) 見通し

次の時間は何をやるか

調べたことをまとめる。
わかったことをまとめる。
車イス用のトイレをまとめる。
(どういうことか)

車イス用の
トイレの
しつもんを
まとめる。

Ⅲ 実践事例

1 事例1 学習過程「つかむ」における実践例 単元名「めざせ！その道の達人」（第5学年）

(1) 単元について

子どもが、「こんな達人になりたい」という思いや願いをもって、深く調べたり、実際に活動したりする単元である。その活動を通して、自己を見つめ直し、よりよい自分に近づいていこうとする気持ちを育てる。

毎年、同単元の学習後に学習発表会が行われているため、子どもは先輩が選択した課題について学んでいる。そこで、単元の初めに「達人」についてのイメージを出し合う際、過去の学習発表会の様子や身近にいる達人について考えることで、これから学習していくことに見通しをもつことができるものとする。また、実際に学校や地域の方の達人技を見せていただくことで、諦めない気持ちや楽しむ気持ちを理解して学習を進めていけるものと期待できる。学習発表会に向けての取り組みを通して、追究してみたい課題とじっくり向き合い、学習計画を立てながら計画的に取り組み、その中で、自己を見つめる力、根気強く取り組む力、よりよい自分に近づこうと努力する力をつけていく子どもの姿が期待できる。

(2) 単元のねらい

- ① 自分で考えたことを大切にし、思いや願いを実現しようとする中で、今の自分を見つめ直し、よりよい自分に近づこうとする気持ちを育てる。
- ② 活動計画を立て計画に沿って活動をすることで、見通しをもって課題を追究していく力をつける。
- ③ 調べたことや考えたことを相手に分かりやすく効果的に伝える力をつける。
- ④ これまでの学習を振り返り、自己の生き方を考えることができるようにする。

(3) 評価規準 *観点は、本実践を行った学校のもの

観点	評価規準	具体的な子どもの姿
かかわり 人や社会、自然などのよさに目を向け、進んでそれらにかかわろうとする。	・学習に取り組む姿勢や内容について、友達の活動のいいところを見つけ伝えるとともに、自分の活動と比べよさを取り入れている。	・中間発表会を開き、友達はどんな達人を目指しているのかを知りよいところを見つけて伝え合う。 ・友達の発表内容と自分の活動内容を比べ、よいところは取り入れながら学習計画の修正を行う。
こだわり 切実な願いをもち、その実現に向けて、粘り強く取り組もうとする。	・課題を解決するために、自分なりのゴールを設定し、課題の解決方法についてじっくり考え、目標の実現に向かって具体的に取り組んでいる。	・達人になるために知っておくべき情報について考え、人に聞いたり資料を集めたりする。また、広く知識を得てそれについて深く考え、必要な情報をメモにまとめる。
がんばり 自分や学校生活の向上に向けて願いをもち、計画的に活動し実現しようとする。	・課題を解決するためにやるべきことを考え、見通しをもって計画を立てている。	・どんな達人になりたいのかをはっきりさせた後、どのようにしたら目標を達成することができるかを考え、学習計画表に整理する。

(4) 指導・評価計画 (全14時間)

学習過程	学習活動	○子どもの活動 (具体的な手だて) ・子どもの思考	評価
つかむ 3	<ul style="list-style-type: none"> ・達人の技を見たり話を聞いたりして学習の見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について考える力が育つ活動 (ワークシートの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・思う、感じる ・全体を見て考える ○自己評価力が育つ活動 (学習日記の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・これから学習することについての見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言や表情、学習日記から、学習素材と進んでかかわろうとしているかを把握する
	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を設定するために、達人のイメージを広げる (本時：ゴシック体で表示) 	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい考えを生み出す活動 (ウェビングマップ的手法の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・ひらめく ・思う、感じる ・例える ・言いかえる ・友達のとらえ方と比較する ・言葉のとらえ方の違いを知る ○課題について考えを深める活動 (課題設定ワークシートの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・全体を見る ・疑問をもつ ・整理分類する 	<ul style="list-style-type: none"> ・発言やワークシートから、イメージを広げているかどうか把握する ・課題設定ワークシートから、もっと調べてみたいことを整理し、理由をつけて課題を設定することができるかどうかを把握する
	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる方法や学習の進め方を考え計画表にまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価力が育つ活動 (学習計画表作りの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・何をいつまでどのように行うか見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習計画表から、課題と追究方法が的確な計画を作成しているかを把握する
追究する 8	<ul style="list-style-type: none"> ・達人になるために必要な情報を集める ・技を磨く ・中間発表会に向けて練習をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について考えを深める活動 (ワークシートの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・疑問にもつ ・仮定する ・言いかえる ・例える ・整理分類する 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子から計画表に沿って必要な情報を集めているかを把握する ・ワークシートから、技を磨くだけでなく、課題を解決するために見通しをもっているかを把握する
	<ul style="list-style-type: none"> ・中間発表会でお互いの達人ぶりを見合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価力が育つ活動 (学習日記の活用) <ul style="list-style-type: none"> ・わかっていること、わからないことを知る ・学習方法を確認する ○課題について考える活動 (発表の見方ワークシートの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表と比較する ・全体を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の様子から、自分の考えを意欲的に発表しているかを把握する
広げる 3	<ul style="list-style-type: none"> ・学習発表会で発表し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について考えを深める活動 (ワークシートの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・友達の発表と比較する ・全体を見る 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表の様子から、調べたことをわかりやすく説明しようとしているかを把握する
	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価力が育つ活動 (振り返りカード及びポートフォリオの活用) <ul style="list-style-type: none"> ・何のために、何をしようとしていたのかを振り返る ・どこまでわかって、何がわからなかったのかを確認する ・自分の学習方法は効果的だったかを振り返る ・新たな課題に気づき、来年の学習発表会への見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードから、単元を通して学習してきたことや、身につけた力を具体的に振り返っているかを把握する

(5) 実践例 学習段階「つかむ」(45分授業)

本実践では、ウェビングマップ的手法を用いて達人のイメージを広げ、自分が取り組みたい課題について思いや願いをもてるようにした。「達人」と聞いて思いつく言葉をワークシートに書き出し、関連する言葉同士を線でつなぐ。こうすることで、頭の中にあるイメージを具体的に表した状態になり、自分が何に興味があり、何をしたいのかがわかってくる。そしてこれが課題を設定する際の思考の手助けとなる。

①ウェビングマップに記入する。(10分)



普段テレビ等で目にしている達人の様子や、前時の達人の話から、イメージを膨らませて記入していく。

なかなかイメージがわからずにワークシートへの記入ができずにいる子どもには、前年度までの学習発表会の発表の様子を思い出すように助言する。

新しい考えを生み出す活動

・ひらめく・思う、感じる・言い換える

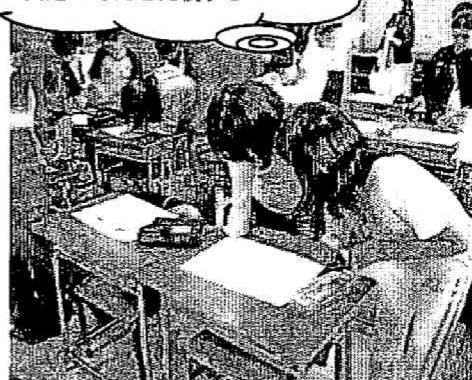
②友達が考えた「達人」について知る。(5分)

友達がどんなイメージをもっているのかを知り自分の考えと比べることで、新たなイメージがわいてくる。

机の上に置いてあるウェビングマップを自由に見て歩くことで、たくさんの友達の考えを知ることができるようにする。(この後、さらに自分のシートに書き加える時間をとる。)

新しい考えを生み出す活動

・友達の考えと比較する



③追究したい課題を考え、ワークシートに記入する。(15分)

「達人マップ」を見ながら考えましょう。

1. もっと詳しく調べられそうなことを書きましょう。

2. どんな達人になりたいかな。

※詳しく調べてみたいことを一つ選んでみよう。

3. その達人になろうと思った理由を書きましょう。

課題について考えを深める活動

・全体を見る・疑問をもつ・整理分類する

書き込んだウェビングマップ全体を見ながら、もっと調べてみたいことや疑問に思っていることについてワークシートに記入していく。

前年度までの学習発表会でのイメージが強く、やりたいことが決まっている子どももいるので、なぜその課題を追究していこうと思っているのか、具体的に理由を書くようにする。

どうしてその達人になりたいと考えたの？

サッカーの達人というのはどんな達人なの？



※教師の助言によって、課題について深く考えられるようにする。

④ 本時の学習を振り返る。(10分) 自己評価力が育つ活動・学習の見通しをもつ

「達人」という言葉のイメージを膨らませることができたか活動を振り返る。その後、今後の学習の見通しを考え、学習日記に記入する。

(A児の例)

日付	活動内容	活動のふり返り	今後の見通し
9/30	達人のお話を聞く。	好きなものだったらなぜつしないで達人になれることが分かった。	私も本当に大好きなものを見つけて達人になりたい。
10/3	イメージを広げる。 課題を決める。	自分の個性のあるテーマができたのでよかった。	海外選手のテクニックについて知りたい。

「学習の振り返りをするための4つの観点」のうち2つを示した。

- ・自分の課題を決められたか。(点検)
- ・これから学習していくことへの見通しがもてたか。(見通し)

<助言計画表>

前時(達人の話聞く)の学習日記をもとにして、個々の助言計画表を作成した。これからの見通しをもつことができている子どもと、まだイメージが十分でない子どもに対する助言を計画した。(実際には、数名に絞って助言を行った。)

	9/30(金)		ウェビングマップを記入する時の支援
	達人のお話を聞く		
	活動のふり返り	見通し	
B児	障子はりや歌や畳職人などのことがわかった。	これらのことを参考にできそう。	◎やりたいことがはっきりしている子への助言 ※具体的なイメージを引き出すための助言 ※障子をはりするための道具にはどんな物があった?
C児	努力をすれば何でもできる(自分を信じて)ことがわかった。	サッカーという課題に向けて調べて進めていきたい。	◎サッカーの何について知りたいの?

前時の学習をもとに自分のやりたいことのイメージがわいている子には、さらに詳しく知りたいことを考えるよう促す。学習していくことはわかっているが、自分のやりたいことと具体的なイメージがわいていない子には、具体的な場面を思い出すような助言を行う。

<考察>

○ ウェビングマップ的手法の活用成果

- ・ 課題を見つけるためにウェビングマップを作っているのだ、ということ子ども自身が意識をしていると、見通しをもって学習を進めることができる。
- ・ ウェビングマップを使う時期が大切である。子どもの中にイメージが出来上がっていない単元の導入時に使うことで、自分の思いや願いがマップに反映されていく。
- ・ ウェビングマップの書き方やイメージの広げ方を学び、他の単元などでも繰り返し活用していくことで、新しい考えを生み出すことができるようになっていく。

○ 課題の設定について

- ・ ウェビングマップに思いや願いを十分に出し切れた段階で課題を設定していくことが好ましい。
- ・ イメージを出し合った後すぐに課題を決めるのではなく、再度課題を設定する時間をとった方が、やりたい課題がはっきりする。

2 事例2 学習過程「追究する」における実践例
単元名「手と手をつなごう～『みんなで生きる町』について考えよう～」(第6学年)

(1) 単元について

すべての人たちにとって暮らしやすい町のデザイン(ユニバーサルデザイン)の視点のもと、「みんなで生きる町」の理想とはどんなものかを、現実との対比から考えていく。そのことを通し、自分の考えを深めたり、他者への理解を深めたりする態度を育て、また、繰り返し自己の活動を振り返ることで、新たな自分に気付く態度を育てていくことを目指す単元である。

本単元の学習では、現実を見つめるために、フィールドワーク・体験活動・ゲストティーチャーを招く・インタビュー活動等を行うことに力を入れ、学習を展開する。また、自分の活動を計画したり、振り返ったりすることができるカードを作成し、学んだことを生かせるような指導・支援を積み重ねていく。この単元における学習活動を生かして、多くの人と支え合いながら生きていくことを大切にし、そのための自己の生き方を見つめなおす姿が期待できる。

(2) 単元のねらい

- ① 自分の課題を見いだし、自分で立てた学習計画のもと、これまで学んできたことを生かしながらか進んで調べ、工夫してまとめたり、分かりやすく発表したりする力を育てる。
- ② 自分の学習課題を追究する中で、「みんなで生きる」という視点のもと、「理想とする町」とはどういうものかを、自分なりに根拠をもって考える力を育てる。
- ③ 様々な立場の人との交流を通して、自分とは違う考えをもつ人たちのことを認めようとする態度を育てるとともに、さらに自分の考えを深めていこうとする態度を育てる。
- ④ 「生きる」ことの素晴らしさに気付くとともに、新しい自分を築こうとする心情を育てる。

(3) 評価規準 *観点は、本実践を行った学校のもの

観点	評価規準	具体的な子どもの姿
課題設定能力 身の回りのことに目を向け、自分の興味関心をもとに課題を設定することができる	・フィールドワークや体験活動から、自分たちが生活する〇〇市に目を向け、そこから自分の興味関心に基づいた課題について考えている。	・ユニバーサルデザインの視点から考えた理想の町と、フィールドワーク等で感じた現実の町との対比から駅前の信号に興味をもち課題とする。
課題解決能力 課題解決への見通しをもって、適切な方法を選んで活動することができる。	・これまで学んできた知識・技能や、もの見方・考え方をもとに、課題解決に生かしている。	・インタビューの方法を思い出し、課題解決のための情報を集めるため、◇◇通りのいろいろな店で、目的をもち、インタビュー活動をする。
学び方・考え方 情報の集め方・調べ方・まとめ方発表の仕方などの方法を身につけ、活用することができる	・これまで学んできた知識・技能や、もの見方・考え方をもとに、課題について、分かりやすく伝えている。	・中間発表会で、今まで進めてきた調べ方だけでは理想とする町プラン作りには至らないことを知り、他の班で行っていた方法を聞き、今後どのように進めていくかについてグループで話し合う。
学習への主体的・創造的な態度 自分の興味関心を持続させ、課題解決を目指して進んで取り組もうとする。	・自分が決めた課題について、興味関心を持続させ、活動を絶えず振り返りながら、積極的に課題解決のために行動している。	・学校で調べている資料だけでなく、放課後に調べているものも含めて、ポートフォリオに情報を蓄積している。
自己の生き方 身につけた知識や技能、考え方を自分の生活に生かそうとする。	・今まで学習してきたことから、自分の考えをもとに、町を大事にしていこうと考えている。	・今まで調べてきたことから、よりよい〇〇市にするために、自分なりのプランを立て、ボランティア活動など自分のできることから実践する。

(4) 指導・評価計画 (全40時間)

学習過程	学習活動	○子どもの活動 (具体的な手立て) ・子どもの思考	評価
つかむ 11	・ウェビングマップ的手法を用い、理想とする町について考える	○新しい考えを生み出す活動 (ウェビングマップ的手法) ・ひらめく	・学習への取組み状況から、興味・関心をもって、自主的に学習しようとしているかを把握する
	・「ユニバーサルデザイン」の視点のもと、フィールドワークを行う ・工夫点、改善点を見つけ、分類する ・車いす体験やアイマスク体験をする	○課題を見つける活動 (KJ法的手法) ・整理分類する	
	・これから調べたい課題を見つける ・第一次理想の町プランを立てる ・班を決め活動計画を立てる	○課題を見つける活動 (ワークシート) ・思う、感じる ○自己評価力が育つ活動 (ワークシート) ・意味・確認・点検・見通し	・ワークシートに記入した内容から、適切な学習課題を設定しているかを把握する
追究する 23	・フィールドワークを行い、各自の課題に関する事柄について調べる ・インターネット等を利用し、調べ活動をする ・課外時間に各自で調査する	○課題について考えを深める活動 (ワークシート) ・言いかえる ・たとえる ・整理分類する ・比較する ・思う、感じる ・仮定する ・疑問をもつ ・逆にして考える ・思い込みに気付く	・調べ学習をしている様子から、学習の意味を押さえて調べているかを把握する ・ワークシートに記入した内容から、子どもが学習課題について考えを深めているかを把握する
	・中間発表を行う (本時：ゴシック体で表示)	○課題について考えを深める活動 (中間発表における質問タイムの設定) ・比較する ・疑問をもつ ・逆にして考える ○新しい考えを生み出す活動 (多重円図法) ・ひらめく ○自己評価力が育つ活動 (ワークシート) ・意味・確認・点検・見通し	・質問内容から課題について考えているかを把握する ・話し合いの発言内容から、新たな考えを出し、今後の方策を考えているかを把握する ・カードに記入した内容から、メタ認知の4観点を押さえているかを把握する
	・車いすユーザーや盲導犬ユーザーの方の話を聞く ・第二次理想の町プランについて考える ・インターネット等を利用し、調べ活動をする ・課外時間に各自で調査する	○課題について考えを深める活動 (ワークシート) ・言いかえる ・たとえる ・整理分類する ・比較する ・思う、感じる ・仮定する ・疑問をもつ ・逆にして考える ・思い込みに気付く	・調べ学習をしている様子から、学習の意味を押さえて調べているかを把握する ・ワークシートに記入した内容から、子どもが学習課題について考えを深めているかを把握する
広げる 6	・調べたことや、「暮らしと政治がかかわること」をもとに第三次理想の町プランをクラス全体で考える	○新しい考えを生み出す活動 (ウェビングマップ的手法) ・ひらめく	・話し合いの発言内容から、考えをまとめたり、新たな発想を述べたりしているかを把握する
	・外部の方を招き理想の町プランを伝える ・改めて理想の町について、そして自分がどうかかわっていききたいかについてまとめる	○課題について考えを深める活動 (ワークシート) ・思う、感じる ○自己評価力が育つ活動 (ワークシート)	・ワークシートに記入した内容から、今まで学習してきたことを振り返りながら学習課題について考えているかを把握する ・ワークシートの「かかわっていききたいことについて」の記入から、学習して学んできたことの思いを把握する

(5) 実践例 学習過程「追究する」：中間発表を行い、そこから新たな課題を見つける

本時では以下の活動を設定する。

- ①前時までの活動の中で調べてきたことを中間発表する活動
- ②発表に対して質問をしたり答えたりする活動
- ③次の活動をグループで話し合っていく活動
- ④自己の活動を振り返り、次の活動に生かす活動

なお、この授業に対し、以下の準備を行う。

- ・質問を促すための助言計画
- ・話し合い活動のもとになるような板書計画を立てる
板書については、「課題、理想、現実、考え、質問」と順を追って考えていくことができるような多重円の図にまとめていく手法をとる。
- ・学習計画カード・振り返りカードの用意

以上を踏まえ、本実践を行った。

① 前時までの活動の中で調べてきたことを中間発表する活動

〈主要な発問〉

発表者は根拠のある考えを伝えましょう。聞く人は根拠や考えに対し質問や提案をしましょう。

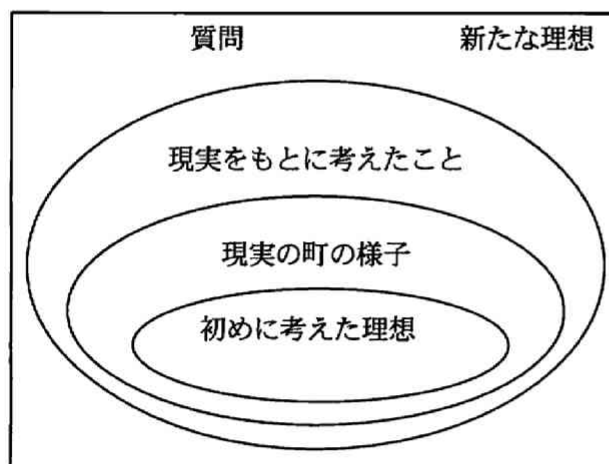
ア 中間発表のねらい

中間発表のねらいは、自分たちの調べていることをより確かなものにしていくことにある。そのため、自分たちが調べ活動をしてきた中から、特に何を伝えたいかについて焦点化することとした。また、自分たちが、どのような事実から、どのような考えをもつようになったのかについて、根拠を明確にすることが大切であると考えた。

イ 中間発表の方法

まず、グループで考える理想の町プランを掲示して説明する。次に、調べた現実を掲示しながら説明する。最後にそれらのことから考えたことをみんなに伝えるように話す。このような流れで、一人1分程度で説明できる内容に止めるよう、内容を焦点化することとした。

その際、発表者は、根拠を明らかにしながら説明を行うことをめあてとした。そのことで、その後の質問タイムの際に質問が出やすくなり、発表者が、今まで気が付かなかったことを、新たな課題としてつかむことができると考えた。



ウ 教師の支援

教師は、子どもたちが中間発表をしている際に、左図にあるような、多重円の図に、発表内容（要点のみ）を整理した。

この記録は、模造紙などに残すことが望ましい。こうした記録を残すことで、いつでも自分たちの中間発表を振り返ることができ、ゲストティーチャーへの質問を考える際にも、この図を見ることで、新たな思考が生まれてくると考えた。

〔教師が、子どもたちの発表内容を整理する『多重円図法』〕

② 発表に対して質問をしたり答えたりする活動

この中間発表では、単に自分たちの発表を行うことだけではなく、質問タイムにも重点を置いている。それは、他の班のメンバーによる、自分たちが今まで気が付かなかった「視点」や「ものの見方」について指摘されることで、新たな課題が生まれてくるからである。このことにより、自分たちは次に何をしていくべきか考えていく材料となると考えた。

なお、質問タイムが活性化するために、助言計画を立てた。

「気が付いたことから質問しよう」「分からなかったことから聞いてみよう」といったAタイプ、「なぜだろう、を見つけて質問しよう」「説明したことの理由を聞こう」というBタイプ、「いろいろな立場から意見を言ってみよう」「逆の考えについて考え、そのことを聞いてみよう」というCタイプと、子ども達の話し合いの状況により、教師側が子どもたちの新たな思考を促すような助言を行うことで、ねらいに近づくようにした。

③ 次の活動をグループで話し合っていく活動

質問タイムで出たことをもとに、これからどのような課題解決を行っていったらよいかを考える活動である。教師が記録として残した多重円図をもとに話し合いを進め、必要に応じて、図に自分たちの新たな考えや計画を付け足していく。このことが子どもたちの課題に対する考えをまとめ、より深めていくことにつながっていくと考える。

④ 自己の活動を振り返り、次の活動に生かす活動

学習日記・学習計画カードを並列し、ポートフォリオ的に、学習してきた順に積み重ね、いつでも自分の活動を振り返ることができるようにした。本実践においても、3分間程度の時間をとり、各自が自分自身で学習を振り返ることとしている。

その際、「意味」「確認」「点検」「見通し」の4観点に即してカードに記入することで、自己評価力を育てることをねらいとした。このように、子どもたちが自己の活動を振り返る活動を繰り返す行うことで、自己評価力を向上させていくことにつながると考えた。

<考察>

○ 課題について考えを深める活動について

質問タイムの際に、教師の働きかけにより、「なぜだろう」「その基準は何と比べてなのか」「具体的に言うとどういうことか」など、『ものの見方・考え方』を意識させた質問が出ることで、課題についてより深く考える場面が見られた。

○ 新しい考えを生み出す活動について

教師が記録する多重円図法を用いることで、記録として残るだけでなく、振り返りの資料として役立ち、また、自分たちの新たな思考を促すことに役立った。

○ 自己評価が育つ活動について

継続して学習日記を書くことで、最初の頃は何を書くのか迷っているなど、書くだけでかなりの時間がかかっていた子どもが、短時間で書くことができる様子が見られた。さらに、振り返りながら、「この方法が使えるのでは」などと、今までに学んだことを、活動の中で生かそうとする姿勢や言動が見られるようになってきた。

○ 今後工夫すべき点について

学習カードの項目の精選や、多重円図を読み取る時間などに考慮する必要がある。

3 事例3 学習過程「広げる」における実践例

単元名「人にやさしい私たちの町」(第4学年)

(1) 単元について

本単元では、地域の様々な「人にやさしい」施設・設備の調べ学習や、障害のある方との交流学習を行う。その中で、他の人の気持ちを感じ、誰でも気持ちよく生活できるようにするためにはどうしたらよいかを考えようとする、心豊かな子どもの育成を目指す。

本単元の学習では、今までに学んだ「課題についての考え方」とそれらを引き出す活動、実地調査、障害のある方との交流活動、そして、「人にやさしい町」の実現のために、自分が何をするか考え実践する。これらの学習活動の中で、学んだことを生かして、自分の課題をより深く吟味し効果的に解決しようとする子どもの姿が期待できる。また、この単元の学習を生かして、「やさしい」とはどういうことなのかを自分なりに考え、優しい気持ちで過ごそうとする心情をもつ子どもの姿が期待できる。

(2) 単元のねらい

- ① これまで学んできたことをもとにして、学習課題を見つけ、簡単な学習計画を立て計画に沿って調べ、自分なりにまとめ、わかりやすく発表する力を育てる。
- ② 「やさしい」とはどういうことなのか自分なりに考え、人の優しさに気付くことができるようにする。
- ③ これまでに学んだことを生かして、自分は周囲から優しくされていることを実感し、誰でも気持ちよく生活できるように、周囲に対して優しくしようとする心情を養う。
- ④ 障害のある方との交流を通して、誰とでも差別や偏見なく接しようとする態度を育てる。

(3) 評価規準 * 観点は、本実践を行った学校のもの

観点	評価規準	具体的な子どもの姿
問題解決力 課題をつかみ、追究し、調べたことをまとめ発表し、自己評価する。	・これまで学んできた知識・技能や見方・考え方をもとにして、自分の学習状況を振り返りながら学習課題をつかみ追究し、調べたことをまとめている。	・自分の経験をもとに「やさしい」という言葉の意味を考え「人にやさしい私たちの町」とはどんな町なのか、施設・設備や自然環境の面から考える。 ・これまでの学習を思い出したり、実際に見学したりして、学校周囲の環境がどのように人にやさしいか様々な観点から考えて、具体的に一つ学習課題として選ぶ。 ・分かったことを確認したり、うまくいかないところを修正したりして、学習課題を追究し、調べたことをまとめる。
対人関係力 相手の立場を理解して、相手に働きかける。	・話を聞いたり課題を調べたりしながら、他の人の気持ちを考えて優しさに気付いている。	・学校や地域の人々から話を聞いたり、障害の疑似体験をしたりしながら、自分の課題を調べ、身の回りの様々な人々の気持ちを考え、優しさに気付く。
表現力 人とかかわり、自分の考えを伝える。	・調べたことをわかりやすく他の人に発表している。	・調べたことを、新聞やパンフレット、クイズ形式など自分なりに工夫してまとめ、相手にわかりやすいように発表する。
社会的実践力 身に付けたことを、日常生活に生かす。	・自分が優しくされていることを実感し、誰でも気持ちよく生活できるようにするために、これまでの学習を生かして、周囲に対して優しくしようと考えている。	・今までに学習したことをもとに、自分たちにも実現可能な「人にやさしい私たちの町」を具体的に考え、ボランティア活動など自分のできることから実践する。 ・これまでの学習を振り返り、自分は周囲から優しくしてもらっていることを実感し、周囲に対して優しくしようとする。

(4) 指導・評価計画 (第3小单元「町にある人にやさしい施設・設備」23時間/全70時間)

学習過程	学習活動	○子どもの活動 (具体的な手だて) ・子どもの思考	評価
つかむ 5	<ul style="list-style-type: none"> みんなで学習計画を考え、作成する 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価力が育つ活動 (掲示用学習計画の作成) ・見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題をつかむ姿から、適切な学習課題を設定しているかを把握する
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題を決める ・自分の学習課題がどのように人にやさしいか考える ・「人にやさしい」ということについての考えを広げる 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を見つける活動 (KJ法的手法の活用) ・整理分類する ○課題について考えを深める活動 (ワークシート「人にやさしいシート」の活用) ・思う、感じる ・疑問をもつ ○新しい考えを生み出す活動 (ウェビングマップ的手法の活用) (ワークシート「ひらめきシート」の活用) ・ひらめく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート「人にやさしいシート」から、自分の学習課題がどのように人にやさしいのか、意味を理解しているかを把握する ・ワークシートに書く振り返りの記述から、自分の学習状況を自己評価しているかを把握する
追究する 14	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことを問いたり撮影したりして学習課題を調べる ・調べたことを基に様々な観点から学習課題について考え、広げ深める ・自分の調べたことを新聞などにまとめる 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題について考えを深める活動 (ワークシート「考えるシート」の活用) ・言いかえる ・たとえる ・整理分類する ・比較する ・思う、感じる ・仮定する ・疑問をもつ ・逆にして考える ・思いこみに気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習をしている様子から、調べたいことを解決しているか、また、学習の意味を押さえて調べているかを把握する ・ワークシート「考えるシート」から、子どもが学習課題についてどの程度考えを深めているかを把握する
広げる 4	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が調べたことを紹介する ・自分の願う「人にやさしい町」をまとめる (本時：ゴシック体で表示) ・新聞などを読み合い、感想を書き合う ・振り返りカードで自分の学習を振り返る 	<ul style="list-style-type: none"> ○自己評価力が育つ活動 (ワークシートの活用) ・意味を押さえる ○新しい考えを生み出す活動 (多重円図法の活用) ・思う、感じる ・ひらめく ・具体的、抽象的にする ・全体を見る ・比較する ○自己評価力が育つ活動 (振り返りカードの活用) ・メタ認知の4観点を押さえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学習課題を紹介している様子から、「どのように人にやさしいのか」という学習の意味を押さえているかを把握する ・紹介を聞いている姿や新聞の感想から、学習の意味を押さえているかを把握する ・図に自分の願いを記入する様子や願いの内容から子どもの理解の様子を把握する ・振り返りカードから、追究する段階で高まった、子どもの「課題について考える力」がどの程度高まったかを把握する

(5) 実践例 自分の願う「人にやさしい町」を書く。

前時までには、子どもは学習課題についての新聞を書いたり撮影したビデオ映像を紹介したりして、他の子どもの調べた学習課題がどのように人にやさしいかを考えている。

本実践では、課題について考える力を育てる活動として、新しい考えを生み出す活動を設定し、多重円図法を取り入れた。子どもが学習課題について調べて分かったことと、それらから思ったことや感じたこと（自分の願い）を書く。子どもがこれらの記述を読むことで、子どもの「人にやさしい町の実現のために、こうしたらよいのでは。」という新しい願いが生み出されることが期待できる。教師は、子どもが新しい願いをひらめくことができるように、発問や助言を計画することが必要である。

① 主要な発問後、新しい自分の願いを考え、記入する。

課題についての考え方
「ひらめく」「具体的、抽象的にする」

自分や友達の調べたことをもとにして、「人にやさしいこんな町にしたい」という新しい自分の願いを図に書き入れましょう。

課題についての考え方「ひらめく」

課題についての考え方「思う、感じる」

上記のような発問を行い、本時にすべきことをはっきりさせた。

なかなか書けない子どもからは、発問の意味をまだ十分に理解していない様子が受け取れる。全体を読んだり、「やさしくされたらどんな気持ちでしたか」という今までの学習を振り返ったりして、自分なりの願いがもてるような助言をした。

一方、自分の調べたことを深めるような願いを書いたり、いくつかの調べたことを合わせて自分の願いを書いたりしている子どももいる。そこで、すぐに書き方を教えるのではなく、②の「情報交換」の活動で、子ども同士学び合いができるように配慮した。

② 書き方や書く内容について、情報交換をする。

課題についての考え方「全体を見る」

自分のグループ以外の図を見て、どのように書いたらよいのか、自分なりに考えることができるように、「図全体を見て、書いてあることを読んでみよう」という助言を行った。多くの子どもは他のグループの書き方や書いている内容を読むことができた。

③ 自分の願いを書いている子どもの考え方を共有する。

課題についての考え方「ひらめく」

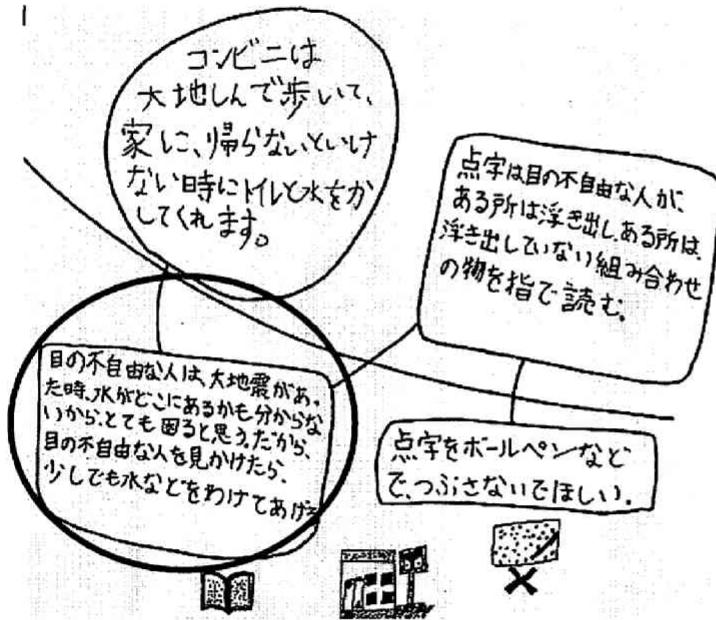
情報交換後は、「新しい自分の願いを考える」とはどういうことか、子どもの考えを共有する必要がある。実地調査の際の写真（横断歩道を渡る人の写真・車いすでバスのスロープを上る体験の写真）を示し、「例えば、この二つが合わさった場面を想像してみよう。」と例を挙げた。

すると、「車椅子で横断歩道を渡る場面。」という意見が出た（つなげる）。そして、「このことをどう思うか。」と問うと、「危ないから、安全に渡れるようにした方がよい。」という意見が出た（新しい願いを考える）。

これらのことを、「学習したこと・知っていることをつなげて、新しい願いを考えるということは、『ひらめく』といい、学習したことを生かす一つの考え方です。」と、課題についての考え方の一つであることを示した。そして、このような考え方のできた子どもが、自分の考えた新しい願いを発表した。

④ 考え方を共有した後、再度図へ新しい自分の願いを記入する。

課題についての考え方「ひらめく」「全体を見る」「比較する」「具体的、抽象的にする」



「新しい願い」の考え方・書き方を共有したところで、再び図へ記入することを指示する。グループ内で話し合う子ども、もう一度他のグループに行って書き方・考え方を学ぼうとする子どもなど、意欲的に考えようとする姿が多く見られる。左の写真は、いくつかの調べたことをもとに、新しい自分の願いを考え表現した例である(○部分)。この子どもは、そのほかにもいくつか願いを書くことができています。

⑤ 本時の学習を振り返る。

多くの子どもは「自分の願いを考えることができた。」と振り返っている。新しい自分の願いをもつのに、子どもは、自分や他の子どもの調べたことや思ったこと・感じたことを読み、それらをつなげ、新しい自分の願いをもつことができたと考えられる。

<考察>

○ 「課題についての考え方」を生かす、発問と助言の工夫

本実践では、「ひらめく（一見関係なさそうな二つ以上の事例が、頭の中でつながる）」という考え方に重点を置いた。「今までに調べたことをもとにして、新しい自分の願いを考えよう。」と、具体例を挙げて「ひらめく」という考え方を共有することにより、子どもは自分の願いを考えようとしている。このように、「課題についての考え方」を促す発問や助言の工夫により、子どもはより具体的に課題について考えることができる。

○ 多重円図法の有効性

本実践の多重円図法は、自分が考えたことを全て自由に書くことができる。この手法は、全体を見て様々な考えに触れてから、それらをつなげたり深めたりして新しい自分の願いを考えるとときに有効である。

○ 学んだことを生かす力を育てる指導の工夫

①②の実践では、子どもは今までに調べたこと（知識・技能）を思い出し、今までに身に付けていた考え方（課題についての考え方）を発揮して、「新しい自分の願いを書く」という課題に取り組んでいた。①②により、学んだことを生かす姿が徐々に見られるようになってきた。

○ 多重円図法の有効性を更に高めるための指導の工夫

自分が調べたことを図に記入したら、グループで音読すると、全員で調べたことを共有できる。そうすることで、「自分や友達の調べたことをもとにして新しい自分の願いを考える」ということがさらに上手にできると考えられる。

Ⅳ 研究の成果と今後の課題

子どもが学んだことを有効に生かすために、思考がよりよく働く支援の工夫に重点をおき、本研究を進めてきた。以下、研究の成果と今後の課題について述べる。

1 研究の成果

(1) 視点1「課題について考える力を育てる支援」

- ・KJ法的手法や多重円図法を活動に入れ、自分たちが調べたことや考えなどを、一つの紙面に書き表すことで、自分の考えと友達のことを比較したり、共有したりすることができた。そして、課題について様々な角度から見たり、考えたりすることで、イメージが広がった。
- ・子どもが『ものの見方・考え方』を意識するように支援の工夫を行ったことにより、自分の新たな考えやより高次の考えを生み出すことへとつながった。その結果、課題について、より深く考え、根拠を明らかにして発表する姿も見られるようになった。
- ・悩んでいる子どもに対し、計画的に教師が思考を促す助言をすることにより、段階に応じた的確な支援ができるようになった。その結果、個に応じた指導も充実してきた。
- ・学習指導計画の中に、その時間に生かすことのできる「学んだこと」を明確にしておくことにより、教師自身が生かせる内容を把握でき、子どもへの指導助言に役立った。

(2) 視点2「メタ認知を意識して、自己評価力を育てる支援」

- ・学習日記などで、「意味」「確認」「点検」「見通し」のメタ認知の4観点を意識させた自己評価を継続して行うことにより、学習の見通しをもったり、自分自身を見つめ、より良い方向へ改善しようとしたりする姿勢が見られるようになってきた。
- ・学習日記などに、教師がメタ認知を意識させるようなコメントを入れることは、個に応じた的確な支援となった。次第に、教師から助言を受けなくても、自主的にメタ認知の4観点を自分自身を振り返ることができるようになってきた。

上記のような成果から、総合的な学習の時間で、意図的に、「考え方」や「考えるための手法」を取り入れたことで、「ウェビングマップで考えればイメージが広がると思うよ。」「『具体的に・もしも』で考えればいい。」「みんなの考えを多重円にして書き出そう。」など、子どもが自ら、「考え方や手法」を活用する姿がみられた。このことから、徐々にではあるが、学んだことを生かす力が育ってきたと考える。

2 今後の課題

- ・『ものの見方・考え方』がより深まるような手法（多重円図法、KJ法的手法など）のよりよい活用法を構築していく。
- ・子どもの自己評価力について、具体的に把握する基準を明確にしていく。
- ・更なる自己評価力を育てるために、相互評価を効果的に取り入れる工夫をしていく。
- ・子ども一人一人の自己評価力を高めることが、子ども同士の相互評価力の向上につながるような指導の工夫をしていく。

平成17年度 教育研究員名簿（ 総合的な学習の時間 ）

◎世話人 ○副世話人

地 区	学 校 名	氏 名
千代田	富士見小学校	○ 辻 川 美紀子
江東	豊洲小学校	◎ 石 田 隆
品川	第一日野小学校	篠 崎 玲 子
大田	入新井第四小学校	井 上 俊 介
豊島	目白小学校	滝 上 俊 恵
練馬	開進第三小学校	小 松 美 絵
練馬	光が丘第六小学校	田 中 清 美
足立	伊興小学校	平 賀 友 徳
葛飾	奥戸小学校	柳 澤 正 幸
八王子	陶 鎔 小 学 校	橋 元 友 美
府中	白糸台小学校	木 下 健 太 郎
国立	国立第八小学校	○ 野 田 喜 嗣
あきる野	小宮小学校	野 尻 迅 人
西東京	栄 小 学 校	佐 藤 博 子

担当 東京都教職員研修センター 統括指導主事 古屋 真宏
指導主事 新井 正一

平成17年度教育研究員研究報告書

東京都教育委員会印刷物登録
平成17年度 第12号

平成18年1月16日

編集・発行 東京都教職員研修センター
所在地 東京都目黒区目黒一丁目1番14号
電話番号 03-5434-1974

印刷会社名 株式会社 今 関 印 刷